

# はじめに

## 「地域×大学 MGP14 宮古島を元気にするプロジェクト」とは？

現在、琉球大学は、平成 27 年度文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択された「新たな地域社会を創造する『未来叶い（ミライカナイ）』プロジェクト」事業を推進しています。

「ひと・まち・しごと総合戦略」を推進する地方自治体とも協定を結び、各市町村における雇用創出・若者定着に関する目標を定めています。

宮古島市と結んだ協定の目標に、「学生のアイデアを活用した『小さな拠点』づくり」があります。今回の「MGP14」はそれに基づくプロジェクトであり、離島・過疎地域の地域課題の解決策を考えるのが目的です。

宮古島の友利地区は、「なりやまあやぐまつり」の開催をはじめ、エコハウスの設置、民泊事業等、昔からいろいろな地域活性化のための取り組みを行っています。しかしその一方で、現在、少子高齢化による人口減少や空家対策などの問題も浮上してきています。また、既存のエコハウスや公民館、3年後に閉校になる校舎の有効利用なども考えなければなりません。若者の地域定着、雇用創出等を含め、地域の更なる活性化を図るためにはどのような手段が考えられるか――。

本プロジェクトは三部構成です。14 人の参加学生が、第一部では宮古島・友利地区における小さな拠点づくりに関わる地域課題を現地で伺い、第二部では地域づくり先進県である島根県奥出雲町で行われている取り組みを視察。そして第三部では、再び宮古島に赴き、友利地区の地域課題を解決をめざし、新鮮な視点、柔軟な発想から生まれたアイデアを提案するプレゼンを実施しました。

地域課題解決への貢献がプロジェクトの目的ですが、その過程を通じて学生たちが様々なことを学び、知見を得、地域のことを深く考えられる人材として成長すること――それももちろん、このプロジェクトの大きな目標です。

### 地域 × 大学 MGP14 宮古島を元気にするプロジェクト

【MGP14】とは「宮古島（M）を元気（G）にするプロジェクト（P）の頭文字を取ったものである。参加人数 14 名を冠して、「MGP14」とした。宮古島と他地域をフィールドにして、地方創生、地域の活性化策を模索、またその作業を通じて、これからの地域再生を担える人材を育成するプログラムである。地域ニーズに沿って、教員と受け入れ地域とでプログラムを企画・実施する。

## 概要

取組名：地域×大学 MGP14 宮古島を元気にするプロジェクト  
主催：琉球大学地域連携推進機構  
(COC+ 事業：「新たな地域社会を創造する未来叶い（ミライカナイ）プロジェクト」)  
連携先：第一部及び第三部 宮古島市企画政策部 宮古島市城辺友利地区  
第二部 ふるさと島根定住財団  
実施地域：第一部及び第三部 宮古島市  
第二部 島根県仁多郡奥出雲町  
対象：琉球大学生  
参加人数：学生 14 名（引率教員 3 名）  
実施期間：第一部 2017 年 2 月 22 日（水）～2 月 23 日（木）1 泊 2 日  
第二部 2017 年 3 月 7 日（火）～3 月 10 日（金）3 泊 4 日  
第三部 2017 年 3 月 16 日（木）日帰り